科目ナンバリング	U-LAS02 10002 LJ35						
授業科目名 <英訳>	芸術学II Theory of Arts II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　田口　かおり		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期	曜時限	木3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

「美術史」という学問は、どのような歴史を辿り形成され、今、私たちにどのような課題を示しているのだろうか。本授業では、「美術史」の起源と発展について歴史上大きな転回点をなす理論やテクストを手がかりに通史的に学ぶ。各時代においてどのような美術史家が誕生し、また、彼らが提示した理論が、当時の歴史的な背景や社会のあり方とどのように切り結ばれ、さまざまな美術作品を解釈するにあたってどのような「新しい眼」をもたらしたのかを再整理する。

[到達目標]

芸術とは何か、「芸術」とは、「美」とは何かという問題について、古来から近現代に至るまで展開されてきた思考の歴史を辿りながら、西洋においてなされてきた芸術表現の特徴について具体例とともに論じ、造形や表現の特徴を記述解説できる力を養う。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション――もののかたち、ものの力
第2回　記述の起源、旅と移動、情報収集――パウサニアスと古代ギリシア見聞録
第3回　偉業とレシピ――大プリニウスの「証言」と「指南」
第4回　絵画術の書をひもとく――チェンニーノ・チェンニーニと「ヴェルダッチョ」
第5回　生成、完成、衰退の発展史観――ジョルジョ・ヴァザーリと「列伝」
第6回　様式論と「白」をめぐる問題――ヨアン・ヨアヒム・ヴィンケルマンと「古代ギリシア」
第7回　古典主義vsバロック――ハインリヒ・ヴェルフリンと「5つの指標」
第8回　装飾のゆくえ――アロイス・リーグルと「芸術意志」
第9回　作品目録と鑑定――ジョヴァンニ・モレッリの「耳」と「兆候」
第10回　図像を読み解く――アビ・ヴァールブルクとエルヴィン・パノフスキーの「イコノロジー」

第11回　知覚心理学とイメージの構造――エルンスト・ゴンブリッチと「観察」
第12回　線・色・形（フォーム）――クレメント・グリーンバーグと「フォーマリズム」
第13回　注文主と絵画の値段――マイケル・バクサンドールと「社会史」
第14回　作品と時間――チェーザレ・ブランディと「保存修復の理論」
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績は平常点５０％（毎回授業後のコメントシートの提出）、学期末レポート５０％で評価する。

芸術学II(2)へ続く↓↓↓

芸術学II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容を参考にしつつ、興味関心のある芸術作品あるいは美術作品についての学びを深める。

[その他（オフィスアワー等）]

講義時間の前後に対応します。
個別の連絡手段（メールアドレスなど）は初回の授業の際に伝えますので、必ず出席をお願いします。

[主要授業科目（学部・学科名）]